

⑥ 6年生 | 「徳川家光と江戸幕府」

参勤交代の道のりを地図帳を使って旅しよう

小学校の地図指導は、3年生から行われ、5年生の国土学習では、毎時間のように活用される。しかし、6年生の歴史学習では、ほとんど活用されていないのが現状である。そこで、江戸時代の「参勤交代」を取り上げて、歴史学習における地図帳の効果的な活用について考えたい。

とかく、歴史学習では、事象を単なる用語説明で終わらせていることが多いように思われる。しかし、小学校の歴史学習は、事象を実感させて生きて働く知識・理解とさせることが大切である。そこで、ここでは「参勤交代は大名にとって大きな負担であった」ということを、地図帳を効果的に活用させて、実感としてとらえさせたい。

1. 加賀藩(金沢藩)の参勤交代図と参勤交代にかかった日数の資料を提示して話し合う



参勤交代図
※行列は全長約2km。
人数は2000~4000人。
参勤交代にかかった日数

▲東京書籍 (6年上) P.60~61

「長い行列で、たくさんの荷物を持って歩くのは大変だろう」「金沢から江戸まで約13日かかっている」ということを、読み取らせる。

2. 金沢から江戸までの行程を、地図帳で調べる

主な地名に印を付けさせ、なぞらせる。(金沢-高岡-富山-魚津-上越-長野-上田-小諸-軽井沢-安中-高崎-深谷-桶川-蕨-東京)

およその距離を測らせ、1日に歩いた距離を計算させる。定規で測ると、ほぼ48cmになり、約480km

になる。従って、1日あたり約40kmを12時間で歩き、1時間あたり約3.3kmをあゝの行列でたくさんの荷物を持って歩いたことになる。

ここでは上記をつかませる活動を通して、参勤交代が12泊13日の強行スケジュールで1日も早く江戸に到着するための努力があったことに気付かせたい。

3. 金沢から江戸までの間で、大変だったと思われる所を地図の中から考え、話し合う

指でなぞらせたり、鉛筆でなぞらせたりして考えさせ、次のことをつかませる。

- ・たくさんの川がある。越中では、神通川、常願寺川、早月川、片貝川、また越後の姫川、信濃の犀川、千曲川など、戦略上の理由から橋のない川も2000~4000人の行列が馬や駕籠、多くの荷物を携えて渡ったことに、驚きをもたせたい。

- ・現在の北陸自動車道や上信越自動車道のトンネルの多さから、トンネルがない時代に1日約40kmも歩くことは並大抵でないことをつかませたい。

4. 資料と地図帳をもとに話し合う

いくつかの関所を通らなければならないことから、他藩を通過することの大変さをつかませる。

資料集などにある「加賀藩が使ったお金の内訳」などの資料から、参勤交代で使ったお金が巨額であることをつかませ、各藩の力を弱めることが幕府のねらいであることをとらえさせたい。一方、各藩では、少しでも参勤交代での経費を節約する努力や工夫があることを、1~3の活動を想起させてつかませたい。

このように、歴史学習においても、地図帳を意図的に活用して、中学校へとつなげていきたい。